

# 文武両道



郡上市立八幡西中学校  
学校便り No.11  
令和4年2月24日



## 「感謝 ～ 64 人のつながり ～」

八幡西中学校長 橋詰勝司

2月10日に、八幡西中学校の伝統行事である「継志の会」を開催しました。継志の会は、3年生一人一人が中学校生活で直面した悩みや不安、努力したこと、そしてそこから得たものを1・2年生に伝えると共に、学校の伝統や文化を次に伝える会です。また、1・2年生は、3年生への感謝の想いや学校の伝統を引き継いでいく決意を表す会でもあります。この伝統ある行事を中心となって進めた2年生は、初めて、zoomとロイロノートを活用し、4教室と会議室を双方向でつなぐ継志の会を開催しました。コロナ対策のために生徒全員が集まることができない中での、全校生徒64人の心をつなぐための、新たな取り組みへのチャレンジでした。

今年の継志の会のテーマは、表題にもある通り、「感謝～64人のつながり～」でした。「感謝・つながり」という言葉は、本年度、ことあるごとに生徒が口にしてきた言葉であり、むしろ、コロナ禍だからこそ強く感じる言葉です。様々な行事ができることは当たり前ではなく、その陰には多くの人の理解や力添えがあったことを実感し、合唱祭では、自分たちの合唱に感謝の想いを載せて歌声を響かせました。また、ソーシャルディスタンスが重要視されるコロナ禍で、心の距離を縮めるために、「つながり」を大切にしながら様々な行事にも取り組んできました。継志の会の当日、3年生の言葉の中にも、「自分の話を最後まで、話し切るまで待ってくれた仲間への感謝の想い」や「困難を乗り越えるためには、仲間に頼ることや仲間と協力していくことの大切さ」、「たくさんの仲間の支えがあったからこそ困難を乗り越えられた」、「仲間の一言が私の不安を払しょくしてくれた」、「この仲間がいてくれたからこそ、今の自分がある」など、仲間への感謝の言葉や仲間とのつながりの大切さを説く言葉が多く聞かれました。

2年生が中心となって取り組みをスタートさせた継志の会ですが、当初イメージしていた内容は、まん延防止等重点措置のために変更せざるをえなくなり、全校で集まって交流したり、合唱を発表したりすることができなくなりました。そこで2年生が考えたのが、冒頭にも紹介した、zoomとロイロノートを活用したりリモート開催でした。3年生への感謝の想いを伝えるために、1・2年生一人一人が責任を自覚し、準備を万端に整えました。3年生へのプレゼントも大好評でした。急な変更や制限が出てきた中でも、臨機応変に対応し、目的意識を見失わず、感謝とつながりの想いをもって、「継志の会」をやり遂げることができました。

## 八西中 1 年生が相生小6年生にリモートで行った入学説明会

1 月 25 日に予定していた入学説明会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止となりました。しかし1年生は、「6年生（相生小）に中学校の生活の様子を直接伝え、安心して中学校に入学してほしい」という願いをもち、2月4日の5時間目に、Zoom を使って入学説明会を実施しました。生徒は Zoom の扱いにも慣れてきて、自分たちで説明の仕方や内容を考え、写真やクイズを入れるなど工夫して、中学校生活について丁寧に伝えることができました。相生小の6年生の児童からも、「説明の仕方が上手で、中学校のことがよくわかった」、「絵や映像が使っており、わかりやすかった」、「中学校に行くのが楽しみになった」、「不安だったけど、安心した」などの感想をいただきました。



## カイツカイブキの伐採と通学路の整備

カイツカイブキの木が 17 本、テニスコートと体育館の間に植えてあります。それらが長年、剪定されないまま成長し、太い枝がテニスコートのフェンスを圧迫し、体育館 2 階の窓ガラスをふさぐほど枝が伸びて体育館に覆い被さっていました。剪定をするには大きくなりすぎ、また本数も多いため、学校としてはその扱いに大変困っていました。教育委員会には毎年のように伐採の依頼をしていましたが、市内の多くの学校から同じような要望が出ており、なかなかそれが通らない状況でした。そんな折、いつも樹木の手入れをしてくださっている神座さん、梶田さん、小林さん、中村さん、そこに武藤登亀男さん、野田保夫さんが加わってくださり、6 名の方で 1 月 29 日にすべてのカイツカイブキを伐採してくださいました。ユニックを使って木を釣り上げ、移動してから枝打ちをするなど、たいへん大掛かりな作業となりましたが、そのすべてをボランティアで行ってくださいました。



また、12 月に伐採してくださった武道場横のケヤキを郡上森林組合の木材センターに運び入れ、その販売代金 3,175 円を学校に寄付してくださいました。それについては生徒会費に組み入れ、今後、生徒会執行部が中心となって話し合い、有効活用できるよう考えていきます。多大なるご支援とお心遣いをありがとうございました。

右の写真は、日陰になった通学路に氷が解けないまま残り、滑りやすくなっていた歩道を安全に通行できるようにしていただいた時の様子です。融雪剤をまいたり、固く凍り付いた氷を割ったりするのは大変な作業でしたが、上野 清さん、田中 保さん、武藤好忠さん、戸田和昭さんが整備をしてくださりました。大変な作業をありがとうございました。

